



EDGECROSS
CONSORTIUM

JSON データコレクタユーザーズマニュアル

ECP-DC1-W-JSON (サンプル品)

ECD-MA3-0006-01-JA

安全上のご注意

(ご使用前に必ずお読みください)

本ソフトウェアのご使用に際しては、本マニュアルをよくお読みいただくと共に、安全に対して十分に注意を払って、正しい取扱いをしていただくようお願いいたします。

本マニュアルで示す注意事項は、本ソフトウェアに関するもののみにについて記載したものです。

Edgecross 対応製品(ハードウェア、ソフトウェア)についてはそれぞれのマニュアルを参照してください。

この「安全上のご注意」では、安全注意事項のランクを「⚠警告」、「⚠注意」として区分してあります。

⚠警告

取扱いを誤った場合に、危険な状況が起こりえて、死亡または重傷を受ける可能性が想定される場合。

⚠注意

取扱いを誤った場合に、危険な状況が起こりえて、中程度の傷害や軽傷を受ける可能性が想定される場合および物的損害だけの発生が想定される場合。

なお、⚠注意に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。

いずれも重要な内容を記載していますので必ず守ってください。

本マニュアルは必要なときに読めるよう大切に保管すると共に、必ず最終ユーザまでお届けいただくようお願いいたします。

[設計上の注意事項]

⚠注意

- 本製品を搭載した産業用 PC の強制電源 OFF が実施されるような操作を行わないでください。

本製品を搭載した産業用 PC の強制電源 OFF が実施されるような操作を行うと、データが不定となり、再設定・再反映が必要となります。また、本製品の誤動作の原因となります。

本ソフトウェアの適用について

- (1) 本ソフトウェアをご使用いただくにあたりましては、万一ソフトウェアに不具合などが発生した場合でも重大な事故にいたらない用途であること、および不具合発生時にはバックアップやフェールセーフ機能が機器外部でシステム的に実施されていることをご使用の条件とさせていただきます。
- (2) 本ソフトウェアはサンプル品であるため、Edgecross コンソーシアムは、本ソフトウェア及び本ソフトウェアを使用した製品の品質、性能、安全に関する一切の責任(債務不履行責任、瑕疵担保責任、品質保証責任、不法行為責任、製造物責任を含むがそれらに限定されない)を負わないものとさせていただきます。

海外での使用につきまして

海外(輸出するとき、海外に持ち出すとき、国内で非居住者に使用させるとき)で本ソフトウェアを使用する場合は、外国為替及び外国貿易法の規制、米国輸出管理規則など外国の輸出関連の各法令を遵守するとともに、各種手続きが必要となる場合があります。詳しくは、Edgecrossコンソーシアム事務局までお問い合わせください。

はじめに

本マニュアルは、JSON データコレクタご使用方法についてご理解いただくためのマニュアルです。

ご使用前に本マニュアルをよくお読みいただき、JSON データコレクタの機能・性能を十分ご理解の上、正しくご使用くださるようお願いいたします。

目次

安全上のご注意	1
本ソフトウェアの適用について	2
海外での使用につきまして	2
はじめに	3
目次	4
関連マニュアル	5
用語	6
1 JSON データコレクタとは	7
1.1 概要	7
1.2 動作概要	7
1.2.1 収集	7
1.2.2 リード	8
1.3 JSON データコレクタの構成	9
2 仕様	10
2.1 機能仕様	10
3 利用手順	12
3.1 インストール手順	12
3.2 インストール確認	12
4 機能	13
4.1 収集機能	13
4.2 リード機能	15
5 パラメータ設定	17
5.1 アクセス先機器設定	17
5.2 リアルタイムフローデザイナーの設定	18
5.3 マネジメントシェルエクスプローラの設定	19
6 トラブルシューティング	20
6.1 エラー内容の確認方法	20
6.2 エラーコード一覧	20
6.3 イベントコード一覧	21
6.4 Windows セキュリティブロックの対策	22
付録	23
付1 ソフトウェアライセンスについて	23
ソフトウェア情報	23
索引	24
改訂履歴	26
Edgecross コンソーシアムからのご案内	27
商標	27
ソフトウェアに関するお問い合わせ	28

関連マニュアル

マニュアル名称[マニュアル番号]	内容	提供形態
JSONデータコレクタユーザーズマニュアル [ECD-MA3-0006-01-JA] (本マニュアル)	JSONデータコレクタの仕様，操作手順，機能，トラブルシューティングなどについて記載しています。	PDF
Edgecross基本ソフトウェアWindows版ユーザーズマニュアル [ECD-MA1-0001-07-JA]	Edgecross基本ソフトウェアの仕様，運転までの手順，機能，トラブルシューティングなどについて記載しています。	PDF

用語

本マニュアルでは、特に明記する場合を除き、下記の用語を使用して説明します。

用語	内容
Edgecross	エッジコンピューティングを核として、FAとITの連携による製造業のソリューションを実現するための仕様、コンセプトと、それを実装したソフトウェア・プラットフォームです。
Edgecross基本ソフトウェア	Edgecrossの機能を実装したソフトウェア製品名です。
JSON	JavaScript Object Notationの略称です。テキストベースのデータ記述言語です。
データコレクタ	各ネットワークを介し、生産現場のデータを収集するソフトウェアコンポーネントで、各種ネットワークおよび接続対象機器向けに各ベンダが提供します。
データモデル管理	生産現場の機器・装置・ラインを抽象化し、階層的に管理する機能です。
マネジメントシェル	データモデル管理機能を実装したWindows版の製品名称です。
マネジメントシェルエクスプローラ	マネジメントシェルが管理するデータモデルの設定および参照を行うソフトウェアです。
リアルタイムデータ処理	生産現場のデータのリアルタイム診断・フィードバックを実現する機能です。
リアルタイムフローデザイナー	リアルタイムフローマネージャの動作設定を行うソフトウェアコンポーネントの名称です。
リアルタイムフローマネージャ	リアルタイムデータ処理を実装したWindows版のソフトウェアコンポーネントの名称です。

1 JSONデータコレクタとは

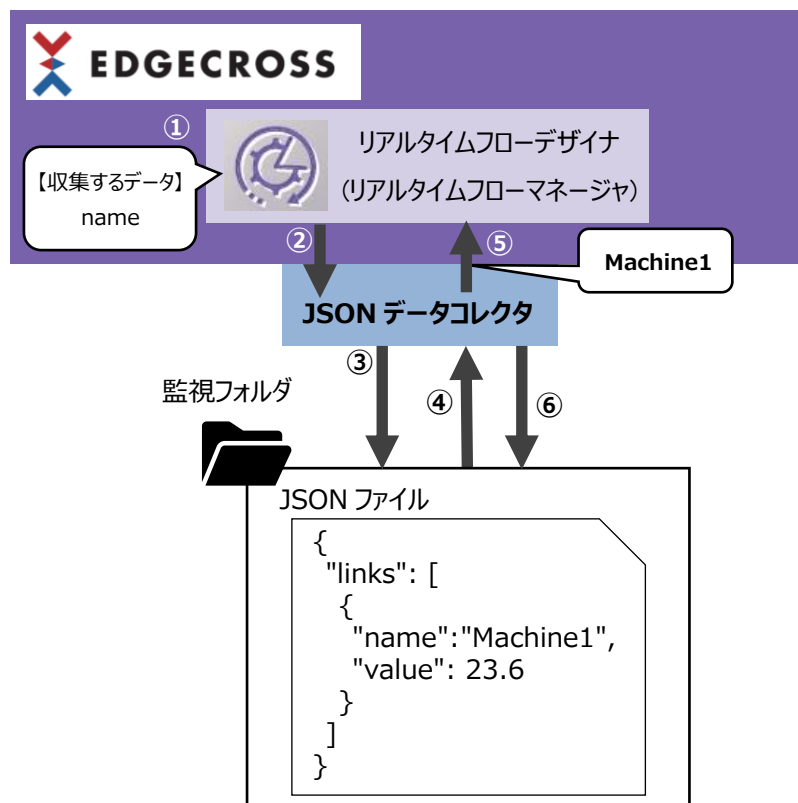
1.1 概要

JSON データコレクタは、監視対象ファイル (JSON ファイル) を経由して機器のデータを収集または読み出すソフトウェアコンポーネントです。

1.2 動作概要

1.2.1 収集

Edgecross 基本ソフトウェアが JSON データコレクタを経由してデータを収集する際の動作概要を示します。



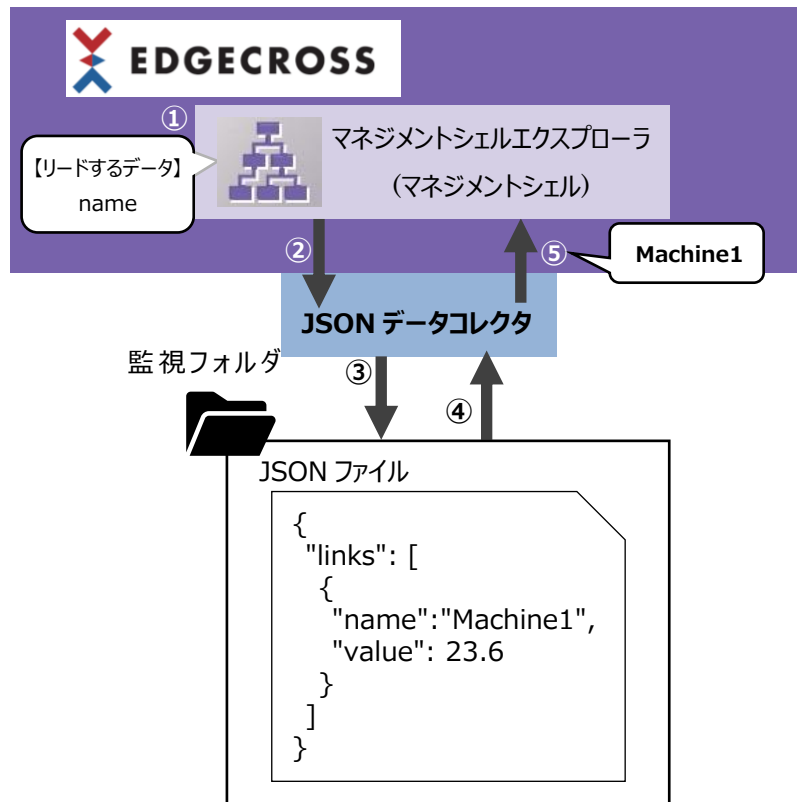
- ① リアルタイムフローデザイナーでJSONデータコレクタの設定を行ない、収集するデータを指定します。
- ② リアルタイムフローマネージャがJSONデータコレクタを起動します。
- ③ JSONデータコレクタが監視フォルダを定期的に監視します。
- ④ 監視フォルダに対象となる監視対象ファイル (JSONファイル※¹) が格納されたときに、該当の監視対象ファイルを読み込みます。
- ⑤ JSONデータコレクタはリアルタイムフローデザイナーで指定したデータを渡します。
- ⑥ データを渡したあと、監視対象ファイルを削除します。

※1 JSON 形式について下記に仕様が記載されていますので参照してください。

📖 11 ページ [2.1 機能仕様] > [データフォーマット]

1.2.2 リード

Edgexcross 基本ソフトウェアが JSON データコレクタを経由してデータをリードする際の動作概要を示します。



- ① マネジメントシェルエクスプローラでJSONデータコレクタの設定を行ない、リードするデータを指定します。
- ② JSONデータコレクタはマネジメントシェルからリード要求を受け取ります。
- ③ 監視フォルダに格納されている対象の監視対象ファイル (JSONファイル※1) のうち、更新日時が最も新しい監視対象ファイルを検索します。
- ④ 検索した監視対象ファイルの最終行からデータを読み出します。
- ⑤ JSONデータコレクタはマネジメントシェルで指定したデータを渡します。

※1 JSON 形式について下記に仕様が記載されていますので参照してください。

📖 11 ページ [2.1 機能仕様] > [データフォーマット]

1.3 JSONデータコレクタの構成

構成ファイル

JSON データコレクタ (フォルダ名 : JSONDataCollector) のフォルダおよびファイル構成は下記のとおりです。

構成要素	内容
JSONDataCollector	JSONデータコレクタの本体が格納されたフォルダ
000000_JSONDataCollector_0001	データコレクタが使用する外部ファイル格納用のフォルダ
DCJson.dll	JSONパース用ユーティリティ
JsonDCDriver.dll	JSONファイル読み込みドライバ
000000_JSONDataCollector_0001.dll	データコレクタユーティリティ
000000_JSONDataCollector_0001.exe	データコレクタサービス
SampleData	サンプルのJSONファイルが格納されたフォルダ
Manual	マニュアル格納フォルダ

2 仕様

2.1 機能仕様

JSON データコレクタの機能仕様を示します。

項目		仕様
対応機能※1		・ 収集機能 ・ リード機能
データコレクタ仕様バージョン		1. 00
収集機能 / リード機能	入力データ型	・ BOOL (0, 1) ・ UINT (0～65535) ・ REAL (1. 175494e-38～3. 402823e+38) ・ STRING (半角英数32文字以内)
	JSONファイルで対応する文字コード	ASCII

※1 なお、JSON データコレクタは、デバイスに書き込むためのライト機能は対応していません。

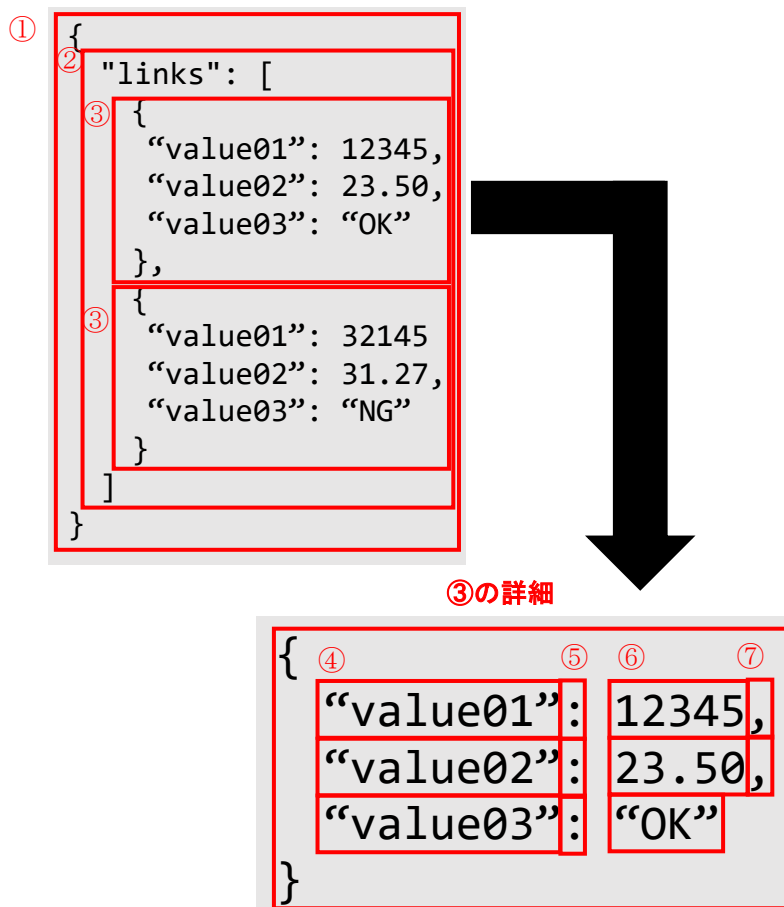
対応言語

JSON データコレクタの対応言語は英語のみです。

データフォーマット

JSON データコレクタが構文解析可能なデータフォーマット (JSON) の例を示します。

読み取り可能なデータフォーマット例

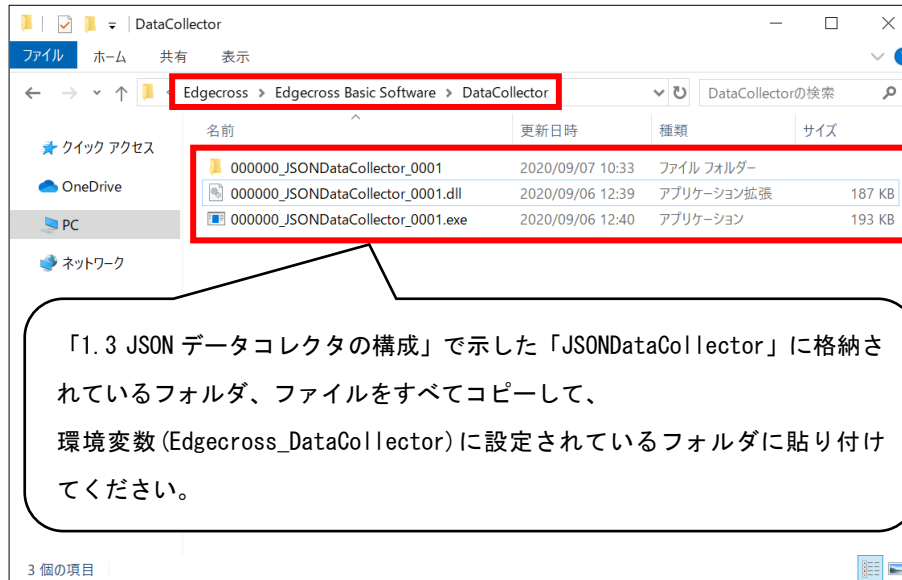


No.	項目	説明	例
①	-	JSONのフォーマットとして指定されている構文で、全体を {} で囲みます。	-
②	親階層	JSONデータコレクタで読み込むデータを子階層として囲む親階層です。 子階層を下記のように囲みます。 “【任意の名称】” : [【子階層】]	“links” : []
③	子階層	実際に読み込むデータを含むオブジェクトで、読み込むデータを {} で囲みます。 オブジェクトが複数ある場合、カンマ (,) でつなげます。	{}, {}
④	Key	Edgecross基本ソフトウェアが収集もしくはリードするためにEdgecross基本ソフトウェアで指定される任意の値です。 Keyはダブルクォート (“ ”) で囲みます。 Edgecross基本ソフトウェアはKeyを指定してデータを収集もしくはリードします。	“value01” “value02” “value03”
⑤	-	JSONのフォーマットとして指定されている構文です。 Keyと値をコロン (:) でひもづけます。	-
⑥	値	Edgecross基本ソフトウェアに指定されたKeyにひもづいて収集もしくはリードされるデータです。 なお、STRING型で読み出す場合には必ず “ ” で囲う必要があります。 データ型はJSONデータコレクタが対応している任意の型を指定できます。 ☞10ページ [2.1 機能仕様] > [収集機能/リード機能] > [入力データ型]	12345 23.50 “OK”
⑦	-	JSONのフォーマットとして指定されている構文です。 Keyと値の組み合わせが複数ある場合、 “,” で区切ります。	-

3 利用手順

3.1 インストール手順

環境変数 (Edgecross_DataCollector) に設定されているフォルダに、「1.3 JSON データコレクタの構成」の「JSONDataCollector」で示したフォルダとファイルを格納してください。

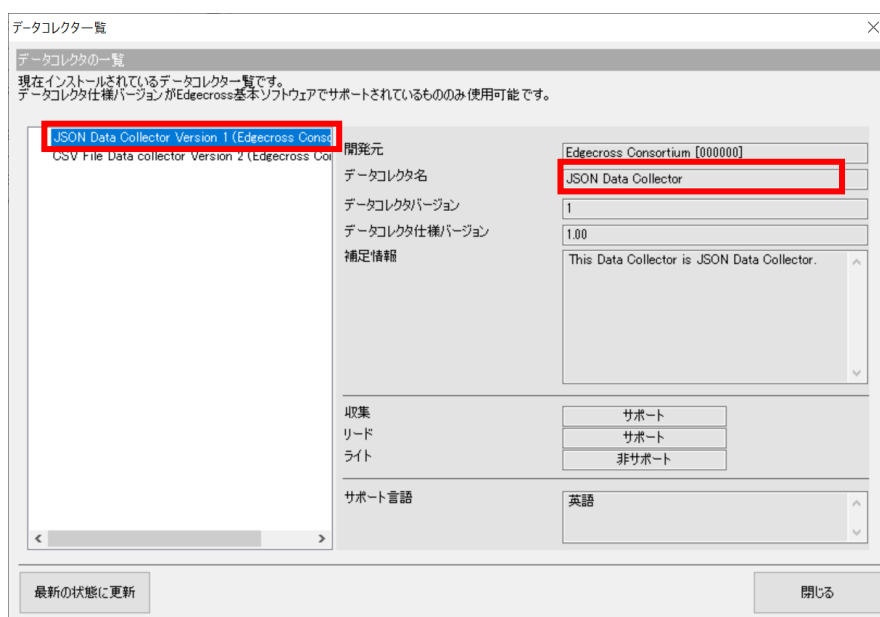


3.2 インストール確認

リアルタイムフローデザイナー (マネジメントシェルエクスプローラ) を起動し、メニューバー→「ヘルプ (H)」→「データコレクター一覧 (D)」で JSON Data Collector が表示されていることが確認できればインストールは完了です。

3.1 インストール手順が適切に実行されているにもかかわらず、JSON Data Collector が表示されていない場合、Windows セキュリティ機能にブロックされている可能性があります。

6.4 Windows セキュリティブロックの対策の対策を参照してください。



4 機能

4.1 収集機能

収集機能の詳細について記載します。

フォルダ監視

指定の監視フォルダに格納されている監視対象ファイル (JSON ファイル) の有無を定期的に監視し、ファイルが格納されたことを検知した時にファイルを取り込みます。

監視フォルダに複数の監視対象ファイルが存在する場合、下記の順で監視対象ファイルを取り込みます。

- ①更新日時 (古いファイルから順に処理)
- ②ファイル名 (更新日時が同時刻の場合)

監視フォルダおよび監視対象ファイルの仕様は下記のとおりです。

項目名	内容
監視フォルダ※1	監視するフォルダのフルパスを指定します。 <ul style="list-style-type: none">・ 設定可能パスはローカルディスクまたは共有フォルダです。・ パスの長さは最大199文字 (ドライブレターからパスの末尾の¥まで含めた長さ) です。・ 指定の監視フォルダ直下が監視の対象となります。・ 複数のJSONデータコレクタで同じ監視フォルダを指定することはできません。
監視対象のJSONファイル	拡張子がJSON (.json) のファイルが対象となります。 <ul style="list-style-type: none">・ 監視対象ファイルのパスの長さは最大256文字です。

※1 リモートの共有フォルダを使用する場合は、下記を参照してください。

☞Edgecross 基本ソフトウェア Windows 版ユーザーズマニュアル

注意事項

監視フォルダについて

- ・ 指定した監視フォルダが確認できない (フォルダ削除、フォルダ名変更、ネットワークの断線など) 場合、監視対象ファイルの取込みは不可となるため、続行エラーとなります。

この場合、監視フォルダが存在するかを30秒間隔で確認し、存在が確認された場合は再度監視フォルダを監視します。

- ・ 暗号化属性を設定したフォルダは指定しないでください。

暗号化属性が設定されているフォルダを監視フォルダに設定した場合、アクセス権の違いで暗号化を解除できないため、読み書きできないファイルとして扱われます。

読み書きできないファイルの収集処理と暗号化属性のフォルダの詳細は下記を参照してください。

☞Edgecross基本ソフトウェアWindows版ユーザーズマニュアル

- ・ 下記の時間を経過してもフォルダの存在が確認できなかった場合は、エラーが発生します。

産業用PC起動時の場合：産業用PC起動から240秒

産業用PC起動後240秒以上経過している場合：10秒

監視対象のJSON ファイルについて

- ・ 監視対象ファイルが読み書きできない場合※1、取込み処理が一時停止します。読書き可能となれば、取込み処理が再開します。

※1 下記の場合に読み書きできません

- ✓ 他のWindowsプロセスがファイルを開いている場合
- ✓ ファイルが読取り専用となっている場合
- ✓ ファイルサイズが0byteの場合
- ✓ ファイルに暗号化属性を設定している場合

監視対象ファイルが蓄積され続けるとディスク容量を圧迫する可能性があるため、長時間読み書きできない状態を避けてください。

収集処理後の監視対象ファイルについて

収集処理後の監視対象ファイルについて示します。

■ 正常時

収集処理が正常に終了した監視対象ファイルは、監視対象フォルダから削除されます。

■ 異常時

ファイル取込みでエラーが発生した場合は、監視フォルダ内に「Error」フォルダが作成され、取り込んだ監視対象ファイルを「Error」フォルダ内に移動させます。

「Error」フォルダ内のファイルは自動的に削除されません。

4.2 リード機能

リード機能の詳細について記載します。

フォルダ監視

監視フォルダに格納されている対象の監視対象ファイルのうち、更新日時が最も新しい監視対象ファイルを検索します。更新日時が同じである監視対象ファイルが複数存在する場合、UTF-8 で定義されている符号の順番でファイル名をソートし、1 番最後にソートされたファイルが読み出されます。

監視フォルダおよび監視対象の JSON ファイルの仕様は下記のとおりです。

項目名	内容
監視フォルダ※1	監視するフォルダのフルパスを指定します。 <ul style="list-style-type: none">・ 設定可能パスはローカルディスクまたは共有フォルダです。・ パスの長さは最大199文字(ドライブレターからパスの末尾の¥まで含めた長さ)です。・ 指定の監視フォルダ直下が監視の対象となります。
監視対象のJSONファイル※2	拡張子がJSON(.json)のファイルが対象となります。 <ul style="list-style-type: none">・ 監視対象ファイルのパスの長さは最大256文字です。

※1 リモートの共有フォルダを使用する場合は、下記を参照してください。

📖 Edgecross 基本ソフトウェア Windows 版ユーザーズマニュアル

※2 読取り専用のファイルを設定できます。

注意事項

監視フォルダについて

- ・ 監視フォルダが存在しない場合またはネットワーク障害などによって監視フォルダにアクセスできない場合、エラーが発生します。

監視対象の JSON ファイルについて

- ・ 下記のいずれかの場合、エラーが発生します。
 - ✓ ファイルが存在しない
 - ✓ サイズが0バイト
 - ✓ 監視フォルダに暗号化属性が設定されており、SYSTEMアカウントで対象のファイルを開くことができない
 - ✓ アクセス権限がない
 - ✓ 他のプロセスで使用されている(読書き禁止の状態)

リード処理後の監視対象ファイルについて

リード処理後の監視対象ファイルについて示します。

■ 正常時

リード処理が正常に終了した監視対象ファイルは、監視対象フォルダから削除されません。

■ 異常時

エラーが発生した場合、対象の監視対象ファイルは削除および移動されません。(JSONファイルデータコレクタは、監視フォルダに新規の監視対象ファイルが格納されるまで、対象のファイルを読み出し続けます。)

5 パラメータ設定

5.1 アクセス先機器設定

アクセス先機器設定で通信パラメータを設定します。

リアルタイムフローデザイナー、マネジメントシェルエクスプローラ共に設定内容は同じです。

アクセス先機器設定No.[1]

設定名

Dev01

コメント

Please specify the watch folder.

Watch Folder

C:\

..

OK

キャンセル

項目	内容
設定名	設定内容については下記を参照してください。 📖 Edgecross基本ソフトウェアWindows版ユーザーズマニュアル
コメント	設定内容については下記を参照してください。 📖 Edgecross基本ソフトウェアWindows版ユーザーズマニュアル
Watch Folder	監視フォルダのパスを指定します※1。

※1 入力可能文字は Windows のファイルパスとして使用可能な文字です。

注意事項

- リアルタイムフローマネージャで複数のJSONデータコレクタを設定する場合、監視フォルダは重複しないようにしてください。
- マネジメントシェルで複数のJSONデータコレクタを設定する場合、監視フォルダは重複しないようにしてください。
- リアルタイムフローマネージャとマネジメントシェルの両方でJSONデータコレクタを使用する場合、リアルタイムフローデザイナーおよびマネジメントシェルエクスプローラで設定した監視フォルダは重複しないようにしてください。

5.2 リアルタイムフローデザイナーの設定

リアルタイムフローデザイナーのデータ収集設定でロケーションパラメータの設定を行います。

データ収集設定

データ収集設定

収集対象とするアクセス先機器を選択後、収集データ、収集オプションを設定してください。

アクセス先機器: JSON (1)

開発元: Edgecross Consortium

データコレクタ名: JSON Data Collector

データコレクタバージョン: 1

収集データ 収集オプション

収集データの設定

収集データを設定してください。

No.	データ名	定数	ロケーション(先頭)	ロケーション(最終)	データ型	文字数	設定値
1	testBool	<input type="checkbox"/>	testBool	testBool	BOOL		
2		<input type="checkbox"/>					
3		<input type="checkbox"/>					
4		<input type="checkbox"/>					
5		<input type="checkbox"/>					
6		<input type="checkbox"/>					
7		<input type="checkbox"/>					
8		<input type="checkbox"/>					
9		<input type="checkbox"/>					
10		<input type="checkbox"/>					
11		<input type="checkbox"/>					
12		<input type="checkbox"/>					

行削除

OK キャンセル

項目	内容
(1) アクセス先機器	アクセス先機器設定で作成したJSONデータコレクタを設定します。
(2) 収集データ	-
データ名	データ名 (32文字まで) を任意で設定します。
定数	JSONデータコレクタを使用する上で入力必須ではありません。 詳細は下記を参照してください。 📖 Edgecross基本ソフトウェアWindows版ユーザーズマニュアル
ロケーション(先頭)	Keyを直接指定します。 Keyについては下記を参照してください。 📖 11ページ 「2.1 機能仕様」 > 「データフォーマット」
ロケーション(最終)	ロケーション(先頭)にKeyが指定されると自動で入力されます。
データ型	Keyのデータ型に合わせてデータ型を設定します。 📖 10ページ 「2.1 機能仕様」 > 「収集機能/リード機能」 > 「入力データ型」
文字数 ^{※1}	データ型で「STRING」を指定した場合、1～32の範囲で文字数を設定します。
設定値	JSONデータコレクタを使用する上で入力必須ではありません。 詳細は下記を参照してください。 📖 Edgecross基本ソフトウェアWindows版ユーザーズマニュアル

※1 指定された文字数より長い文字数のデータが収集された場合、収集されたデータから指定された文字数分が先頭文字から切り出されて次のプロセスへ渡されます。

ex) 指定する文字数 : 5

収集されたデータ : abcdefg

上記の条件でストアリングすると、「abcde」と出力される。

5.3 マネジメントシェルエクスプローラの設定

マネジメントシェルエクスプローラのリソース設定でロケーションパラメータの設定を行います。

外部データタグリソース追加

データタグリソース名

Resource

リソース表示名

リソース

アクセス先機器

JSONDataCollector

ロケーション

testBool

データ型

BOOL

文字数

OK

キャンセル

項目	内容
データタグリソース名	外部データタグリソースの名称 (32文字まで) を設定します。 詳細は下記を参照してください。 👉 Edgecross基本ソフトウェアWindows版ユーザーズマニュアル
リソース表示名	外部データタグリソースの表示名称 (64文字まで) を設定します。 詳細は下記を参照してください。 👉 Edgecross基本ソフトウェアWindows版ユーザーズマニュアル
アクセス先機器	アクセス先機器設定で作成したJSONデータコレクタを設定します。
ロケーション	Keyを直接指定します。 👉11ページ 「2.1 機能仕様」 > 「データフォーマット」
データ型	Keyのデータ型に合わせてデータ型を設定します。 👉10ページ 「2.1 機能仕様」 > 「収集機能/リード機能」 > 「入力データ型」
文字数 ^{※1}	データ型で「STRING」を指定した場合、1～32の範囲で文字数を設定します。

※1 指定された文字数より長い文字数のデータが読み出された場合、読み出されたデータから指定された文字数分が先頭文字から切り出されて次のプロセスへ渡されます。

ex) 指定する文字数 : 5

読み出されたデータ : abcdefg

上記の条件でリードすると、「abcde」と出力される。

6 トラブルシューティング

6.1 エラー内容の確認方法

エラー内容の確認には、下記の方法があります。

確認方法	詳細
リアルタイムフローデザイナー	リアルタイムフローデザイナーの“リアルタイムフローマネージャ診断”画面によりエラーコードを確認できます。 詳細は下記を参照してください。 📖 Edgecross基本ソフトウェアWindows版ユーザーズマニュアル
マネジメントシェルエクスプローラ	マネジメントシェルエクスプローラの“エラー情報一覧”画面によりエラーコードを確認できます。 詳細は下記を参照してください。 📖 Edgecross基本ソフトウェアWindows版ユーザーズマニュアル

6.2 エラーコード一覧

JSON データコレクタを使用するうえで発生するエラーコードを示します。

エラーコード	メッセージ内容	エラー内容	処置内容
5A01	JSON File Data collector error	Failed to read the Monitoring Folder.	<ul style="list-style-type: none">・ Please review the Process Flow setting.・ Please check the access right or others of the monitoring folder.・ Please check whether other applications or others are accessing the Json file stored in the monitoring folder.・ Please check whether there is a CSV file/text file that cannot be read or written from or to the monitoring folder.・ When the remote common folder is used, please check whether there is any problem in the connection path of the network and whether the network drive is specified. Also, please reduce the load on the network by reducing the frequency of accessing the connection destination.
5A02	JSON File Data collector error	Failed to read the JSON file due to the error in it.	<ul style="list-style-type: none">・ Please check whether there is data outside the data type range in the JSON file.・ Please check whether there are any lines that have insufficient number of data in the JSON file.・ Please check the character code of the JSON file.
5A03	JSON File Data collector error	Failed to delete the JSON file that was successfully read.	<ul style="list-style-type: none">・ Please check whether the JSON file can be deleted.・ Please check whether other applications or others are accessing the JSON file stored in the monitoring folder.・ Please check whether the JSON file

			<p>moved during operation.</p> <ul style="list-style-type: none"> When the remote common folder is used, please check whether there is any problem in the connection path of the network. Also, please reduce the load on the network by reducing the frequency of accessing the connection destination.
5A04	JSON File Data collector error	Failed to move the JSON file that could not be read to the error folder.	<ul style="list-style-type: none"> Please check whether the JSON file can be moved. Please check whether other applications or others are accessing the JSON file stored in the monitoring folder. Please check whether the JSON file moved during operation. When the remote common folder is used, please check whether there is any problem in the connection path of the network. Also, please reduce the load on the network by reducing the frequency of accessing the connection destination.
5A05	JSON File Data collector error	The Error Folder could not be created in the Monitoring Folder.	<ul style="list-style-type: none"> Please check the access right or others of the monitoring folder. When the remote common folder is used, please check whether there is any problem in the connection path of the network. Also, please reduce the load on the network by reducing the frequency of accessing the connection destination.
5A06	JSON File Data collector error	The key value does not exist in the JSON file.	<ul style="list-style-type: none"> Please review the Process Flow setting. Please review the JSON files.

6.3 イベントコード一覧

JSON データコレクタにイベントコードは発生しません。

6.4 Windowsセキュリティブロックの対策

ファイルを実行する際、ファイルを実行する際、Windows セキュリティ機能によりブロックされてしまった場合の対処方法は下記の通りです。

<現象>

JSON データコレクタを指定の場所へ貼り付けし、Edgecross 基本ソフトウェアのリアルタイムフローデザイナーを起動し「データコレクター一覧」を表示したが「JSON Data Collector」が画面に表示されない。

<原因>

Windows がセキュリティ機能で .exe と .dll ファイルの読み込みをブロックしている可能性があります。

<処置方法>

下記手順で該当の .exe と .dll ファイルのブロックを解除してください。

1. 以下対象ファイルのプロパティ画面を表示する。
 - ・ 000000_JSONDataCollector_0001.exe
 - ・ 000000_JSONDataCollector_0001.dll
 - ・ DCJson.dll [000000_JSONDataCollector_0001] フォルダ内に格納
2. プロパティ画面の全般タブ下部の「セキュリティ」グループに「ブロックの解除」というチェックボックスがあるので、これをオンにする。
※「セキュリティ」グループに「ブロックの解除」が表示されない場合は、セキュリティ機能でブロックされていません。
他の要因が考えられるため、Edgecrossコンソーシアムまでお問い合わせください。
3. 適用ボタンをクリックして設定を反映する。
4. Edgecross基本ソフトウェアのリアルタイムフローデザイナーを起動し、「JSON Data Collector」が表示されることを確認する。

付録

付1 ソフトウェアライセンスについて

本ソフトウェアは、複数のソフトウェアコンポーネントで構成されています。それぞれ当コンソーシアムまたは第三者の著作権が存在します。

本ソフトウェアには、下記のソフトウェアが含まれています。

- 第三者の著作権が存在し、フリーソフトウェアとして配布されるソフトウェア
 - GNU Lesser General Public License (以下 LGPL) に基づき利用許諾されるソフトウェア
 - Eclipse Public License (以下 EPL) および Eclipse Distribution License (以下 EDL) に基づき利用許諾されるソフトウェア
- 本ソフトウェアに組み込まれた EPL のオープンソースのソフトウェアは、下記のソフトウェア情報に記載の EPL の条件によりソースコードの入手、再配布の権利があります。

☞ 23 ページ ソフトウェア情報

ただし、これらは単体で有用であることを期待して頒布されますが、「商品性」または「特定の目的についての適合性」についての黙示の保証をしないことを含め、一切の保証はなされません。その他のソフトウェアについては、ソースコードの配布対象ではありません。

なお、オープンソースのソースコードの内容に関するお問い合わせはご遠慮ください。

ソフトウェア情報

本製品には下記のソフトウェアが含まれています。

- ① cJSON (☞ 23 ページ cJSON)

cJSON

Copyright (c) 2009–2017 Dave Gamble and cJSON contributors

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

索引

W

Windows セキュリティブロックの対策 22

あ

アクセス先機器設定 17

い

イベントコード一覧 21

インストール確認 12

インストール手順 12

え

エラーコード一覧 20

エラー内容の確認方法 20

き

機能仕様 10

し

収集 7

収集機能 13

ま

マネジメントシェルのエクスプローラの設定 19

り

リアルタイムフローデザイナーの設定 18

リード 8

リード機能 15

MEMO

改訂履歴

*文書コードは、本説明書の表紙の右下に記載してあります。

改訂年月	文書コード	改訂内容
2020年10月	ECD-MA3-0006-01-JA	初版

本書によって、工業所有権その他の権利の実施に対する保証、または実施権を許諾するものではありません。また本書の掲載内容の使用により起因する工業所有権上の諸問題については、Edgecrossコンソーシアムは一切その責任を負うことができません。

2020 Edgecross Consortium

Edgecrossコンソーシアムからのご案内

●Edgecross マーケットプレイスのご案内●

各種 Edgecross 対応製品（エッジアプリケーション、データコレクタ、IT ゲートウェイ）の中から目的に応じた製品を検索し、購入できます。また、技術サポートを受けられるサポートパックも購入できます。

詳しくはWeb をご覧ください。

<https://www.marketplace.edgecross.org/>

●Edgecross コンソーシアム入会のご案内●

ご入会されますと Edgecross に関する最新技術資料や仕様書などを無償で入手できます。また、部会活動や各種イベントを通じて会員企業と交流することができます。

詳しくはWeb をご覧ください。

<https://www.edgecross.org/>

商標

本文中における会社名、システム名、製品名などは、一般に各社の登録商標または商標です。

本文中で、商標記号（™, ®）は明記していない場合があります。

ソフトウェアに関するお問い合わせ

ソフトウェアに関するご相談は、Edgecross コンソーシアムのお問い合わせ窓口までお問い合わせください。

Edgecross コンソーシアム お問い合わせ窓口

<https://www.edgexcross.org/ja/contact/form/>

2020 年 10 月作成

本マニュアルは、お断りなく仕様変更することがありますのでご了承ください。